

Ⅲ 推進方針と今後の主な取組

「Ⅱ 成果と課題」を踏まえ、今後、徳島県教育委員会が進めるキャリア教育の方向性としてまとめると、次のとおりとなります。

1 「ふるさと とくしま」を知る・考える機会の創出・拡充

関係する「Ⅱ 成果と課題」

- Ⅱ-1-(2)「地域や社会の出来事への関心」や「社会参画」・・・地域・地元企業等と連携した取組
- Ⅱ-1-(4)働くことへの理解・・・課題探究型の学習活動
- Ⅱ-1-(5)学んだことと社会（働くこと）への接続
・・・具体的な社会・職業との接続，社会との接続を意識した体験的活動やその振り返りの重視
- Ⅱ-1-(7)特別支援学校における切れ目ないキャリア教育・・・「人や地域と関わる力」の育成
- Ⅱ-2-(2)横の連携・・・学校と社会(企業等)との連携・協働の深化
- Ⅱ-2-(4)特別支援学校における横の連携・・・社会と連携したポジティブな行動支援

2 挑み続ける「人財」の育成

関係する「Ⅱ 成果と課題」

- Ⅱ-1-(2)「地域や社会の出来事への関心」や「社会参画」・・・地域の諸課題に取り組む意義や意味
- Ⅱ-1-(4)働くことへの理解・・・課題探究型の学習活動
- Ⅱ-1-(5)学んだことと社会（働くこと）への接続・・・具体的な社会・職業との接続
- Ⅱ-1-(6)予期せぬ困難への対応・・・チャレンジし続ける人材を育成
- Ⅱ-1-(7)特別支援学校における切れ目ないキャリア教育・・・一人一人の職業技能の向上
- Ⅱ-2-(2)横の連携・・・学校と社会(企業等)との質的連携・協働の深化
- Ⅱ-2-(4)特別支援学校における横の連携・・・社会と連携したポジティブな行動支援

3 「自分」を認め・創る手立ての実践

関係する「Ⅱ 成果と課題」

- Ⅱ-1-(1)「自己肯定感の向上」・・・各学校段階の接続を意識した取組
- Ⅱ-1-(3)将来の夢や目標・・・「えがく力」の充実
- Ⅱ-1-(4)働くことへの理解・・・「アカデミック・インターンシップ」の充実
・・・家庭・地域・企業等と連携した体系的なキャリア教育
- Ⅱ-1-(5)学んだことと社会（働くこと）への接続
・・・社会との接続を意識した体験活動やその振り返りを重視
- Ⅱ-1-(7)特別支援学校における切れ目ないキャリア教育
・・・幼稚部・小学部から高等部までの切れ目ないキャリア教育の充実
- Ⅱ-2-(1)縦の連携・・・各学校段階の接続を促進する教材の工夫と活用
- Ⅱ-2-(3)特別支援学校における縦の連携・・・各学部間の連携と小・中・高等学校との連携

この1～3の方向性には、順序性があるものではなく、また、それぞれに独立した取組があるものでもありません。後に示している取組についても、1～3の方向性のうち、一番特徴付ける項目において示しています。また、これまでも行ってきた教育活動についても同様で、新たな視点で組み直し、それぞれを意味付け、整理し、効果をつなぐものとして示しています。



1 「ふるさととくしま」を知る・考える機会の創出・拡充

郷土の
ひと・もの・ことを
愛し、大切に
思う気持ちを醸成

現実の
地域課題に
チャレンジ

2 挑み続ける「人財」の育成

挑戦し続ける
人に触れ、
チャレンジ
し続ける意欲
を醸成

解が1つに
定まらない
ことを体感

相互に関連

相互に関連

振り返ること
によって、
将来を見通す

小学校段階
からの
体験的活動を
振り返る

3 「自分」を認め・創る 手立ての実践



Ⅲ 推進方針と今後の主な取組

◎徳島県におけるキャリア教育で身に付けさせたい資質・能力

【 】内は、主に対応する基礎的・汎用的能力

かかわる力	【人間関係形成・社会形成能力】
<p>多様な他者の考え方や立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力</p> <p>本県においては、「ふるさと とくしま」をベースに、社会の変化に対応し、多様な個人や集団、社会とかかわる力を育むことにより、他者と協力・協働して今後の持続可能な社会を形成していくために必要なコミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップ等の育成を図る</p>	
みつめる力	【自己理解・自己管理能力】
<p>自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ今後の成長のために進んで学ぼうとする力</p> <p>本県においては、「キャリア・パスポート」等を活用し、試行錯誤した経験の振り返りをもとに、自分自身を客観的・肯定的にみつめる力を育むことにより、キャリア形成において基盤となる自己理解能力や主体性、忍耐力等の育成を図る</p>	
すすむ力	【課題対応能力】
<p>仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力</p> <p>本県においては、様々な課題を捉え、粘り強く地道に挑戦を繰り返し、物事を前に進めていくすすむ力を育成することにより、様々な課題に対応し、解決していくために必要な発想力や計画構想力、実行力、情報活用能力等の育成を図る</p>	
えがく力	【キャリアプランニング能力】
<p>「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力</p> <p>本県においては、人生100年時代を見据え、社会人・職業人として生きていくために将来の「生き方」をえがく力を育成することにより、学ぶことや働くことの意義や将来設計力等の育成を図る</p>	

1 「ふるさと とくしま」を知る・考える機会の創出・拡充

- ・とくしまをベースに多様な人々と関わり、「かかわる力」を育成
- ・とくしまをベースに働くことを学びの方向性をつなげる「みつめる力」を育成

必要なアプローチ

- とくしまの「よさ」「強み」を知り、学んだことを活用する仕組みづくり
- 地域課題を学び、社会参画意識を高め、貢献する意欲の醸成
- 事前・事後指導を充実し、体験を生かす運用の工夫

今後の取組

【関連する「Ⅱ 成果と課題」 1-(2), (4), (5), (7), 2-(2), (4)】

- (1) 地域が抱える課題について探究することは、地域の魅力を実感できるだけでなく、自己の課題解決力を高めたり、地域と自分の可能性を発見したりすることにつながり、児童生徒の社会参画意欲・意識を高めます。
 - ◎「あわ教育サポーター企業等データベースシステム」の活用や地域・経済団体等と連携した各種事業等の実施及び活用を促進し、とくしまの「よさ」「強み」の理解を更に推進する。
- (2) 各学校段階に応じた活動ができるよう、関係する地域の自治体や企業等と十分に連携・協働し、育成を目指す児童生徒像の共有を図り、活動を推進します。
 - ◎各学校段階に応じた、企業等、地域と連携した地域の課題解決に取り組む好事例を普及し、地方創生への多様な関わり方を学び、発信する。
- (3) 体験を生かして、物事の背景や、与える影響を考え、自己の適性を判断することで、児童生徒のキャリア発達を促すとともに、集団の中の一員であることを自覚し、持続可能な社会の形成者となるための意識を高めます。
 - ◎学んだことと社会（働くこと）との接続を意識して、職場見学や職場体験・インターンシップをはじめ、環境問題や地域課題に対するフィールドワークや地域の伝統行事等への参加といった体験的活動の実施を充実する。

《発達段階等においては》

- ◎幼児期には、高齢者や働く人等、自分の生活に関係の深い地域の人々との触れあいや交流を通じて、人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わう活動を取り入れる。
- ◎小学校では、社会科や総合的な学習の時間等における学習活動で、体験を通じて職業や働く人への興味関心を高める機会を増やすことに加え、上級学校への接続を意識した振り返りを行うなど、教育活動全体を通じたキャリア教育の位置付けを明確にする。特に高学年では、自ら課題や問題を見つけ自分たちで解決できる意識を高める。
- ◎中学校では、受入先の企業等と緊密な連携を図り、活動の目的やそれを達成するための道筋・手立てを明確にし、活動後の適切な振り返りを組み込んだ職場体験活動を一層活用する。
- ◎中学校や高等学校では、RESAS（地域経済分析システム）の活用等、EBPM（エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング）の仕組みを学び、地域の諸課題を題材に、データ活用による、根拠を持った課題解決学習を実施する。
- ◎高等学校では、高等教育機関や企業等と連携し、地域での「アカデミック・イ

Ⅲ 推進方針と今後の主な取組

「インターンシップ」受入先の確保に向けた取組を推進する。小学校・中学校段階においても、接続する学校段階の先を意識して、高等教育機関が有する人的資源や物的資源の活用を推進する。

- ◎高等学校では、生徒がこれまでに学んだことから主体的に将来の在り方・生き方を見据えて卒業後の進路決定に至るよう、徳島で活躍する多様な職業人と関わる機会を設ける。
- ◎特別支援学校では、児童生徒が学校近隣を中心とした地域の活動に参加するなど、将来にわたって地域で活躍できる力を身に付けることができるよう、交流及び共同学習を推進する。



職場見学の様子



地域での聞き取り調査の様子



海外バイヤーと商談する生徒



グループ協議の様子



複数校から集まり、提言をまとめる



中学生に実験を指導する高校生

2 挑み続ける「人財」の育成

- ・社会の中で自己を捉え、学び続けようとする「みつめる力」を育成
- ・直面する諸課題に、試行錯誤し、取り組み続けようとする「すすむ力」を育成

必要なアプローチ

- 人生100年時代を見据えた多様な職業観・勤労観の育成
- 困難に柔軟に対応できる社会的・職業的自立のための基盤となる能力の育成
- 相談機関や再挑戦・リカレント教育の機会の周知

今後の取組

【関連する「Ⅱ 成果と課題」 1-(2), (4), (5), (6), (7), 2-(2), (4)】

- (1) 学校で習得した知識・技能が、相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成され、機能することが体感できるよう、解が1つに定まらない現代社会の諸課題について取り組み、合意形成や合意した解決策を実践する機会を増やします。
 - ◎各学校段階に応じた、解が1つに定まらない地域課題を扱う機会を増やし、課題解決に向けてチャレンジし、発表する場面を設けるとともに、結果ではなく、その過程が重視できるよう評価方法を検討する。
- (2) 少子化が進む中、同年代との話合いはもとより、異なる年齢や地域、職業など、多様な立場の方々と共に現代社会の諸課題について考えることで、自分のできることを理解し、解決に向けて取り組み続け、達成感・自己有用感を醸成します。
 - ◎多様な課題解決策を知り、柔軟な発想を認め合い、尊重し合うことにより、自らの考えを表明する学習機会を充実する。
- (3) 将来の夢を描き、目標を持つことと合わせて、夢を実現するために必要な資質・能力の育成や「働くこと」の現実につなげていく指導を充実します。
 - ◎教科や総合的な学習（探究）の時間、特別活動等、全ての教育活動において、取り組む過程を重視し、何度でも粘り強く挑戦することでレジリエンスを鍛え、目標を設定し、挑み続ける資質・能力を育成する。

《発達段階等においては》

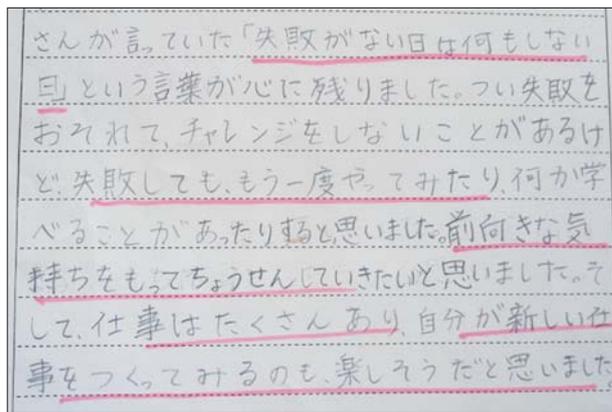
- ◎幼児が集団生活の中で、自己を発揮し、自信を持って行動できるよう、教師や他の幼児から必要とされる体験を伴う活動を実施する。
- ◎小学校では、地域の身近な人々と協力し、活動する楽しさを体感させ、助け合う体験を重視し、発達段階に応じた自発的な活動への欲求の高まりなどを積極的に活用する。特に高学年では、自己肯定感を育み、未来への夢や希望を持つことができる心や、異年齢集団の活動に進んで参加し、努力をしてやり遂げた達成感が味わえるよう重視した活動を実施する。
- ◎中学校では、将来、社会でどのように役立つのか、学習の意義・目的をしっかりと理解させ、生活上の役割を果たす責任感や連帯感を育てることを意識した活動に関わらせ、直面する諸課題に柔軟に取り組む過程を見取り、評価する。
- ◎中学校・高等学校段階では、発達段階に応じ、就労後に直面する可能性がある労働問題に対する労働法等に関する教育等を充実し、相談機関・相談方法等についても周知する。また、学び直しや再挑戦・リカレント教育の機会も周知する。

Ⅲ 推進方針と今後の主な取組

- ◎高等学校では、各学科の特徴を生かし、生徒の実態等に応じ、社会との接続を意識し、多様な働き方を行っている職業人による出前講座や、大学生や大学院生、若手職業人によるキャリアガイダンスを積極的に取り入れる。
- ◎高等学校中途退学者や進路未決定卒業者等に対する追指導や地域若者サポートステーション等の情報提供を実施する。
- ◎特別支援学校では、幼児児童生徒の将来を見据えたキャリア教育を推進するとともに、高等部生徒の働きたい想いに応える就労支援の更なる充実を図る。



協力して竹を運ぶ園児



出前講座を受けた児童の感想



体験入学で園児を教える児童



大学生によるキャリアガイダンス



地域でリサイクル資材回収を行う生徒



ワークルールを学ぶ出前講座

3 「自分」を認め・創る手立ての実践

- ・ 幼児期から高等学校段階までの体系的な振り返りによる「みつめる力」を育成
- ・ 「目標-実践-体験-省察-振り返り-目標再設定」による「えがく力」を育成

必要なアプローチ

- 生活等を振り返り、これからの生き方を見通す「キャリア・パスポート」の活用
- つながる「キャリア・パスポート」を踏まえたキャリア形成支援の充実

今後の取組

【関連する「Ⅱ 成果と課題」 1-(1), (3), (4), (5), (7), 2-(1), (3)】

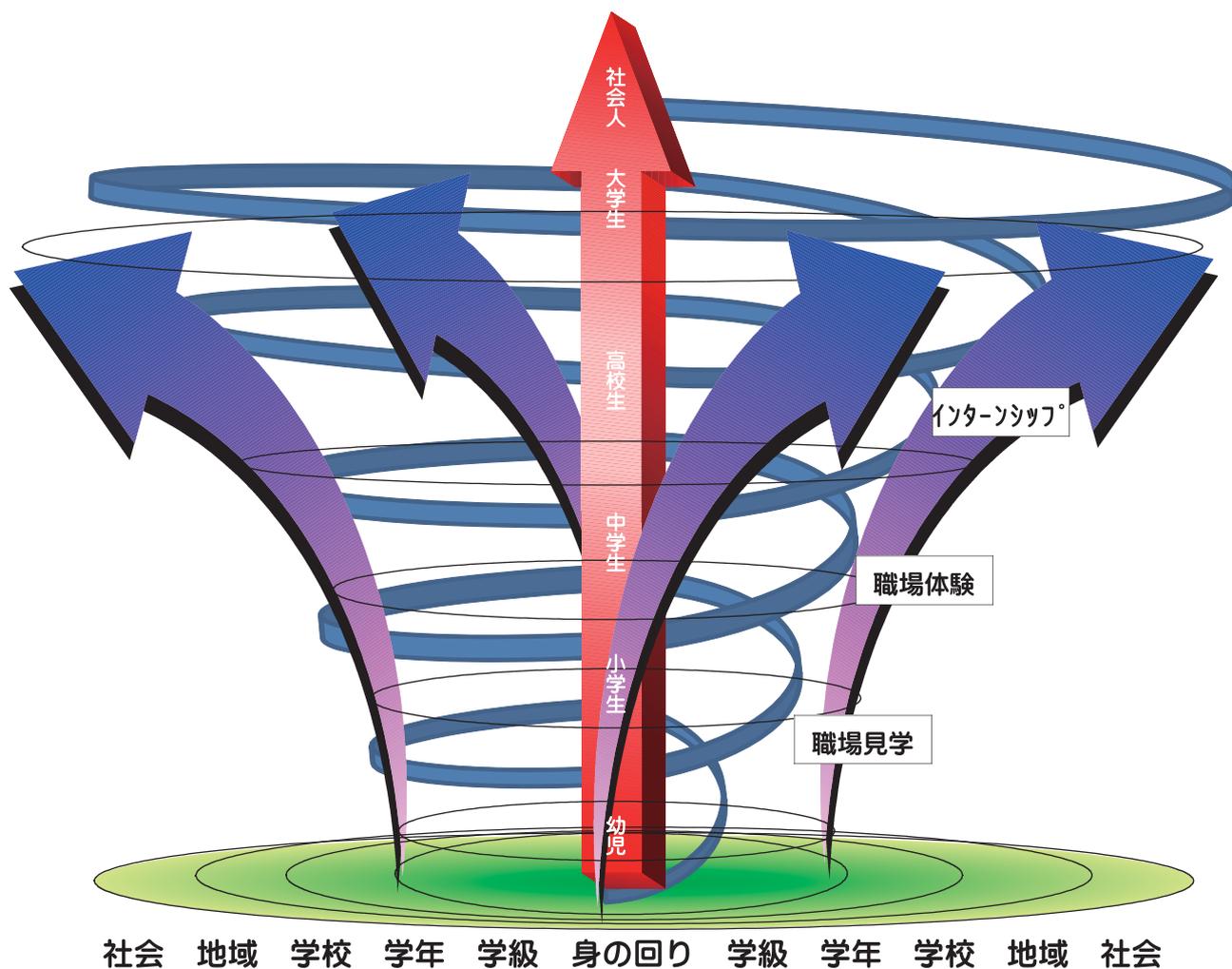
- (1) 国が示す、活用や指導の手引を踏まえた「キャリア・パスポート」の活用により、各教科等の学びと特別活動における学びが往還し、教科等の枠を越えて、特別活動での実践や生活、学習などが自己の将来や社会づくりにつなげる取組を推進します。
 - ◎ 児童生徒が、目標を持ち、学ぶ意欲を発達段階に応じて高めるため、自分の強みを振り返り、近い将来と少し先の未来を考察できるよう「キャリア・パスポート」を活用する。
- (2) 次の学校段階等との接続を円滑に進めるため、学年、校種を越えて持ち上がることができ、接続する前後の学校等との連携を強化します。
 - ◎ 学年段階をはじめ学校種を越えた接続段階での連携を緊密にする、前後の接続を意識した「キャリア・パスポート」の活用を研究し、全ての教育活動を通じた、徳島ならではの「キャリア・パスポート」の活用事例を普及する。

《発達段階等においては》

- ◎ 幼児期においては、自発的・自主的な活動を促すため、計画的に環境を構成し、遊びを中心とした生活を通して体験を重ねるように、一人一人に応じて総合的に指導する。
- ◎ 小学校では、低学年での自分自身や身近な人々、社会に対する関心を高めるグループ活動等をもとに、各教科での学習が、日常生活や将来の生き方と関連していることに気付かせる機会を積極的に設け、自分の成長を感じ、学ぶ意欲につながる振り返りを実施する。特に高学年では、自分の将来を描き、中学校生活に向けた意欲を醸成する小学校生活全体の振り返りを実施する。
- ◎ 小・中学校間では、市町村内あるいは中学校区内の小学校、中学校において連続した取組が可能となるよう教材等の工夫や活用方法を共有する。
- ◎ 中学校では、多くの生徒が高等学校等に進学していることから、小学校段階から高等学校段階を意識した連続した取組となるよう、育成を目指す資質・能力を示す。
- ◎ 中学校では、多様なキャリアパスなど、将来の社会との接続を意識した視点を踏まえ、自校におけるこれまでの進路指導の取組を更に充実する。特に、生徒が長期的展望に立ち、主体的に進路選択できる力を育てられるよう、小学校から引き継いだ「キャリア・パスポート」をもとにキャリア形成支援（進路指導・キャリアカウンセリング）を充実する。
- ◎ 高等学校では、小学校段階からの「キャリア・パスポート」を基に、生徒自身の将来や社会参画に対するこれまでの意識を把握し、キャリア形成支援（進路指導・キャリアカウンセリング）を充実する。

◎特別支援学校では、個別の指導計画や個別の教育支援計画を活用し、幼児児童生徒の一人一人に応じた教育を進めるとともに、卒業後の社会参加と自立を目指し、幼稚部から高等部まで切れ目のない教育の充実を図る。

キャリア教育の取組イメージ



「キャリア・パスポート」について

（「キャリア・パスポート」導入に向けた調査研究協力者会議（第1～3回）資料 から作成）

文部科学省では、平成30年度に「キャリア・パスポート」の導入に向けた調査研究を行っており、その結果として、年度末に様式例や活用及び指導の手引が示される予定です。平成31年度からは高等学校で学習指導要領改訂に伴う移行措置が始まることで、小・中・高等学校の特別活動において、「キャリア・パスポート」の活用を示した新学習指導要領による指導が求められています。

なお、平成31年1月23日に開催された「『キャリア・パスポート』導入に向けた調査協力者会議」（第3回）資料によれば、その**実施時期**を、「都道府県教育委員会等、各地域・各学校で柔軟にカスタマイズし、平成32年4月より、すべての小学校、中学校、高等学校において実施することとする。ただし、準備が整っていたり、既存の取組で代替できたりする場合は平成31年4月より先行実施できるものとする。なお、先行実施に当たっては都道府県等や設置者一律でなくとも各学校の判断で行うことができることとする。特別支援学校においては、個別支援計画等により「キャリア・パスポート」の目的に迫ることができると考えられることから、児童生徒の障害の程度や発達段階に応じて、無理のない記録や蓄積とする」こととされています。

また、様式については育成を目指す児童生徒像にあわせ、各学校及び設置者が変更することが可能となります。

そのため、県教育委員会では、徳島県として項目例や活用法等を示し、連続した取組が可能となるよう、各学校及び市町村教育委員会の教材作成を支援します。

2019.3(H31)	「徳島県キャリア教育推進指針Ⅱ」策定
2019.4以降	徳島版「キャリア・パスポート(仮)」検討・試行（小・中・高）
2020.4(H32)	徳島版「キャリア・パスポート(仮)」実施（小・中・高） 新学習指導要領実施（小）
2021.4	新学習指導要領実施（小・中）
2022.4	新学習指導要領実施（小・中・高 ^{※年次進行} ）

※「キャリア・パスポート」の目的

小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるもの。

教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

※「キャリア・パスポート」の定義

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。

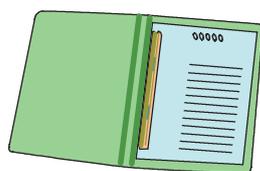
なお、その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。

「キャリア・パスポート」接続のイメージ

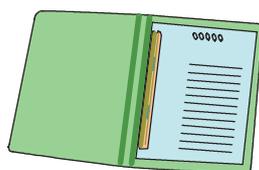
児童生徒が日々積み重ねている教科の授業や学校行事等の記録をこれまで以上に大事にしていくこと。・・・でも

小学校から高校までのすべての記録を持ちあがるには無理がある。だから、再編集や取捨選択が求められる。

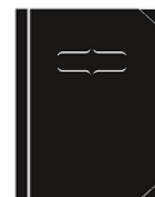
持ち上がりが前提となれば、「どう見通し」「どう振り返らせるのか、活用を意図した記録と蓄積が大事になってくる。



I 日常の授業や行事等の記録



II 学期や年間、入学から卒業を見通し振り返る記録



III 学校生活全体、これまでの生活等を振り返り、これからの生き方を見通す記録

※「キャリア・パスポート」の内容について

学習指導要領特別活動編解説 「(前略) こうした教材については、小学校から高等学校卒業まで、その後の進路も含め、国や都道府県教育委員会等が提供する各種資料等を活用しつつ、各地域・各学校における実態に応じ、学校間で連携しながら、柔軟な工夫を行うことが期待される。」のとおり、都道府県教育委員会等、各地域・各学校で柔軟にカスタマイズされることを前提とする。

- 1 児童生徒自らが記録し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見通し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする
 - ▶ 児童生徒が記録する日常のワークシートや日記、手帳や作文は、「キャリア・パスポート」を作成する上での貴重な基礎資料となるが、それをそのまま蓄積することは不可能かつ効果的ではなく、基礎資料を基に学年もしくは入学から卒業等の中・長期的な振り返りと見通しができる内容とすること
- 2 学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む内容とする※
 - ▶ 教科・科目のみ、学校行事等のみの自己評価票とならないように留意すること
(①「教科学習」、②「教科外活動(学校行事、児童会・生徒会活動や係活動、部活動など①以外の学校内での活動)」、③「学校外の活動(ボランティア等の地域活動、家庭内での取組、習い事などの活動)」の3つの視点で振り返り、見通しが持てるような内容とすること)
 - ▶ 特別活動を要しつつ各教科・科目等と学びが往還していることを児童生徒が認識できるように工夫すること
- 3 学年、校種を越えて持ち上がることができるものとする
 - ▶ 小学校入学から高等学校卒業までの記録を蓄積する前提の内容とすること
 - ▶ 各シートはA4判(両面使用可)に統一し、各学年での蓄積は数ページ(10枚以内)とすること

- 4 大人（家族や教師，地域住民等）が対話的に関わることができるものとする
と
▶ 家族や教師，地域住民等の負担が過剰にならないように配慮しつつも，児童生徒が自己有用感の醸成や自己変容の自覚に結び付けられるような対話を重視すること
- 5 詳しい説明がなくても児童生徒が記述できるものとする
- 6 学級活動・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合にはその内容及び実施時間数にふさわしいものとする
と
▶ 学習指導要領解説特別活動編を必ず確認すること
- 7 内容のカスタマイズは協力者会議等（教員や保護者代表，民間企業や団体の代表，教育委員会職員など）の多様な意見を生かして行うこと

※ 校区内外に関わらず，徳島や地域の行事や活動での思いを記述できる欄を設ける。

「キャリア・パスポート（試案）小学校」の概要

- ・時期
各学年始め，各学期末，各学年末，卒業直前，体験活動・学校行事の前後
- ・内容
 - ・長所，得意なこと
 - ・将来の夢，なりたい自分
 - ・夢中になっていること（好きなこと），クラスのために頑張りたいこと
 - ・頑張ったこと，楽しかったこと，できるようになったこと
 - ・目標と目標達成のための方策，評価（学習，生活，家庭の項目）
 - ・次の学年・中学校で頑張りたいこと
 - ・教員や家族からのメッセージ

「キャリア・パスポート（試案）中学校」の概要

- ・時期
各学年始め，各学期末，各学年末，卒業直前，体験活動・学校行事の前後
- ・内容
 - ・今の自分（好きなこと・もの，得意なこと・もの）
 - ・自分のよいところ
 - ・どんな大人になりたいか（仕事に就きたいか）とそのために必要な力（身に付いた力）
 - ・目標と目標達成のための方策，評価（教科，行事や係，家庭や地域，部活動や習い事の項目）
 - ・将来の自分（30歳の私）
 - ・教員や家族からのメッセージ

「キャリア・パスポート（試案）高等学校」の概要

- ・時期
各学年始め，各学期末，各学年末，卒業直前，体験活動・学校行事の前後
- ・内容
 - ・「学期を見通し，振り返る」
 - ・頑張りたいこととその方策，評価（授業，学校行事，部活動等の項目）
 - ・教員や家族からのメッセージ
 - ・「一年を見通し，振り返る」
 - ・伸ばしたい力（「基礎的・汎用的能力」4つの能力別）とその評価
 - ・心に残っていること（授業，学校行事，部活動等の項目）とその理由
 - ・将来の自分（1年後の私，30歳の私）
 - ・教員や家族からのメッセージ
 - ・「小学校入学から高校卒業までを振り返る」
 - ・一番心に残っていることと自己の成長への影響（小学校，中学校，高等学校）
 - ・自分の現在と将来（自己PR，進路，社会貢献，生き方）
 - ・教員や家族からのメッセージ

おわりに（未来のふるさと徳島を描く）

今ある仕事の多くがなくなると言われる将来を生きる子供たちにとって、求められる資質・能力も、社会の変化によって、その時々で変わっていくことでしょう。それでも、変わらず求められるのは、身に付いた知識・技能をもとに、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を発揮して、学びを人生や社会に生かそうとする、学びに向かう力・人間性、すなわち「学び続ける力」であるといえます。

今後5年間の推進方針となる『ふるさと とくしま』を知る・考える機会の創出・拡充「挑み続ける『人財』の育成」「『自分』を認め・創る手立ての実践」は、それぞれのアプローチにより、児童生徒がそれぞれの未来を切り拓いていく上で必要となる「学び続ける力」を育成するものです。

解が1つに定まらない、あるいは解があるのかさえも分からない現実社会の諸課題に対し、粘り強く追究する資質・能力は、学校、家庭、地域といった多様な空間の中で、それぞれの発達段階に応じて、悩んだり、行き詰まったり、ぶつかったりする中で培われるものです。各学校が家庭・経済団体・企業等と連携し、地域の活性化やものづくりについて学ぶことで、挑戦と失敗を繰り返し「無から有を生み出す」ことを経験し、自分の将来は自分で切り拓くものであることをしっかりと自覚できていくことでしょう。

予測困難な未来は、自らが描いた将来と異なることがほとんどですが、思いどおりにならないからこそ、未来は創り上げていくものであり、その中で新たに「切り拓いていく」ものでもあります。初めから自分の限界を設定し、あきらめてしまわないよう、自分の将来はどこからでも始められることを伝え、大人になってからもチャレンジし続けられることを、伝えましょう。

子供たちの生きる未来が、とくしまの未来そのものであり、子供たちが、とくしまの将来を描き、新しい地図を創ります。私たち教職員が、「チーム学校」として授業改善を進める姿や、学び続ける姿をみせることも、児童生徒にとって優れたキャリア教育となります。教職員一人一人の在り方・生き方を含め、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく姿を伝え、ふるさと徳島の次代を担うキャリア教育を充実していきましょう。

